

平成 16 年 4 月 21 日

ウレタン製品の**新製品販売**について

第一工業製薬株式会社

第一工業製薬(本社:京都市、社長:津田章裕)は、このたびコア事業の一つであるウレタン製品のラインアップを整え、総合パンフレットを発行しました。この総合パンフレットには、当社が 40 年間にわたり進めてきたウレタン製品の歴史と技術を記述し、現在販売している製品群を体系的に記述しています。また、同時に、お客様への開発支援に使用する膨大な技術資料をそろえ、支援スタッフの教育訓練を実施しており、ウレタン製品の顧客へのサポート体制を強化しています。

新カタログには、いくつかの新製品が登場しており、フォーム用原料、塗料システム、接着剤、電気絶縁材料などで、いずれも顧客ニーズに応じて製品化をすすめてきたウレタン製品です。当社は、界面活性剤の開発・販売で培ってきたノウハウをもとに、顧客の要望に合わせたさまざまなスペックの商品を取り揃え、その使用処方についても同時に開発するという顧客密着型の体制での製品開発・販売を進めてまいりました。具体的には、ウレタン製品の販売をウレタン・建材営業部(東京、大阪)が担当し、開発をウレタン研究部(京都)が担い、営業部門全員が開発技術とマインドを持っており、お客様の要求仕様に基づき、販売部門と研究部門とが連携して、ウレタン製品のアプリケーションの開発・販売を行なっています。

今回新たに発表した製品は、次のようなものです。(一覧表参照)

軟質ウレタンフォームの原料には、中活性で、伸び特性を向上させるポリオール**ハイフレックス750**と製品強度を向上させるポリマーポリオール**ハイフレックスND637、641**を追加しました。これらのポリオールで作られた軟質フォームは、通気性や柔軟性などのクッション性に優れた特長を持っています。

断熱材に用いられる、硬質ウレタンフォームの原料であるポリオールには、**DKポリオール3805、3810**を追加しました。これらのポリオールで作られた硬質フォームは、軽量で断熱性に優れており、ボード発泡やスプレーフォーム(施工現場でスプレー塗布する硬質ウレタンフォーム)として用いられる他、難燃性や接着性を向上させる特長も有しています。

塗料システムには、新たに**二液スプレーH-6R27-3、H-6F14、H-6F16**の3品種を追加しました。この塗料システムは、床や屋根の防水や補修だけでなく、コンクリート側壁の崩落防止や合成木材のコーティングに用いることができます。無溶剤のため、環境にやさしく、収縮・肉痩せが少ないことが特長です。また、塗装後30分で歩行可能な速硬化ですので、工期短縮にも有効です。

エイムフレックスWF-100、200は、水系浸漬、塗布タイプの一液型ポリウレタン樹脂で過酷なヒートショックのかかる電気、電子部品の絶縁に用いられます。低温域の耐寒性が良いため、コンデンサー、ハイブリッド型IC(HIC)、センサー、プリント配線基板(PCB:Print Circuit Board)、トランスの絶縁に適しています。

主な新製品と分野・特長の一覧

品名	分野	特長
ハイフレックス750	軟質・半硬質ウレタンフォーム用ポリオール	中活性
ハイフレックスND637	"	ポリマーポリオール
ハイフレックスND641	"	"
DKポリオール3805	硬質ウレタンフォーム用ポリオール	ボード発泡、スプレーフォーム、高活性
DKポリオール3810	"	"
二液スプレーH-6R27-3	二液スプレーシステム	防水材
二液スプレーH-6F14	"	床材
二液スプレーH-6F16	"	高硬度床
エイムフレックスWF-100	水系一液型電気絶縁用ウレタン樹脂	PCB、センサーなどの電子部品の絶縁
エイムフレックスWF-200	"	"

国内のウレタン製品の需要は、軟・硬質ウレタンフォームが年間約 25 万トン、エラストマー約 2 万トン、塗料 13 万トン、接着剤 6 万トンなどで、全体では約 60 万トンです。当社のウレタン製品の売上高は、年間約 80 億円です。今後、フォーム、塗料や電気絶縁分野での商品開発を通じて、販売量の増加を目指しています。

以上

・本件についてのお問い合わせ先

第一工業製薬株式会社

広報室 075-255-0915

(参考)

1. ウレタン樹脂

ウレタン樹脂は、液体から固体に変化するユニークな反応プロセスに加え、さまざまな加工技術により、実に数多くの用途が開発され、ウレタンフォーム、エラストマー、塗料、人工皮革、弾性繊維、土木建築材料などに使用されています。ウレタン樹脂は、分子構造の主骨格にウレタン結合 - NHCOO - をもつ高分子で、構造鎖の種類や長さを変化させたり、両端の構造を変化させたりすることにより、さまざまな物性をつくることができます。たとえば、両末端にヒドロキシル基をもつポリエーテルや、芳香族ジアミンや多価アルコールによる架橋構造によって弾性を示すウレタンゴムやエラストマー、さらに発泡反応に伴う軟質・硬質ウレタンフォームなどをつくることができます。ウレタン樹脂は、このような特性を応用して、クッション、断熱材、成形材料、塗料材料などとして使用されています。

2. ポリオール

ポリオールは、ウレタン樹脂の主原料となる OH(ヒドロキシル)基を2個以上有する化合物。

ポリマーポリオールは、ポリオール中でアクリロニトリルやスチレンなどの不飽和モノマーを重合させた反応混合物で、フォームの硬度や強度を向上させる効果がある。